

2019年度 人権NPO 協働助成事業一覧

※下記の内容は交付申込書に基づき事務局が抜粋加工しています。

※内容については、取り組みが進む中で変更が生じることがあります。

一般財団法人 大阪府人権協会

団体名	箕面市学生活動連携会議 (MGK24)	特定非営利活動法人 ふーどばんく OSAKA	Drag Queen Story Hour in 大阪 実行委員会	大阪市内識字・日本語教室連絡会
重点	必要とされる相談や支援の活動	持続可能な活動の仕組みづくり	ユニークな啓発・広報活動	当事者のつながりづくり
企画名	日本語学習と教科補習を通じた 双方向&多様な学び支援事業	官民一体型における食支援で社会的課題の解決に取り組むふーどばんく活動	ドラッグクイーンによる絵本の読み聞かせ事業	「学習者の生活や思いに根ざし、人生をきりひらく識字学習教材」づくり～大阪の識字・日本語教室のこれまで・いま・これからをつなぐ～
課題	日本語学習機会の空白地帯である箕面市西地域は、外国人市民等にとって、あらゆる活動・学習の基盤である「日本語によるコミュニケーション」を習得する機会の提供が求められている。 学校での学習が遅れがちな外国人市民等（児童・生徒）の学びをサポートする機能が求められている。	日本では年間約 650 万トンの食品を廃棄している現状があり、それにより環境破壊を引き起こされている。一方で子どもの7人に1人が貧困状態にあり、食の支援を受けることができない状態にある。 環境問題の解決と貧困における食の支援をおこなう活動が求められている。	性的マイノリティの問題は、他の人権問題に比べ見えづらく、当事者が孤立しやすい問題である。 その要因の一つとして考えられるのは、一番身近な「家族」の理解を得ることが困難なことである。このことは特に子どもたちにとって大きな障壁であると考えられる。	これまで大阪の識字・日本語教室では、人権を礎にした教室運営や様々な課題を抱える学習者に応じた教材づくりがなされてきた。しかし継承がうまくいかず、市販の教材に頼らざるを得ない教室が増えた。 また生い立ちを通じ、社会のあり方を見つめなおす文集を作成する教室も減ってきた。 教室での取り組みが自己完結型になり、他教室とのつながりも弱くなっている。
目標	外国人市民の日本語によるコミュニケーションや日本の社会・文化を習得する学習機会が生まれる。また学校での学習が遅れがちな外国人市民の学びをサポートできる。	食の支援に必要な食材の確保と、食品廃棄を減らすため、自治体・支援団体・当事者とを結ぶ活動を進め、地域社会がつながることをめざす。	性的マイノリティ当事者が「家族」という狭く身近なコミュニティの中で孤立することなく、誰もが自分らしく生きることのできる社会に貢献したい。	・学習者の生活や思いに根ざした教材づくりを促進し、生活や生い立ちをつづった文集づくりを盛んにする。 ・大阪府内識字・日本語教室のネットワークの拡充 ・人権感覚豊かな人材を増やす。
内容	身近で気軽にいける学習できる環境をつくる。そのため、地域団体と協働して初期活動基盤（ボランティア養成と、当事者も含めた相互協働のワークショップによる継続的支援事業のメニュー化）を整備する。	官民が協働して、ふーどばんく活動に取り組むことにより、啓発、支援を行う。 ・フードドライブ活動の実施 ・フードパントリー（個別支援活動）の実施 ・子ども食堂への支援	主に3～8歳の子どものとその保護者を対象に、ドラッグクイーンをゲストに招き、絵本の読み聞かせや歌と動きのアクティビティ等に取り組む。 性の多様性について理屈ではなく、できる限り感覚的に実感してもらうため、ドラッグクイーンと共に楽しい時間を過ごす。 ・パイロット版の実施 ・イベントへの参加 ・報告用リーフレットの作成	教材づくりをテーマに、大阪府内識字・日本語教室のオリジナル教材（教室運営・教室活動含む）をもとにした学習会や研修会を実施する。 ・教材集作成のための学習会（ワークショップ形式）の実施 ・教材集掲載のコラム「学習者の声」のための交流会の実施 ・作成した教材の実践 ・活動をもとに教材集を作成 ・作成した教材集をもとに研修を実施し、各教室で教材作成を促進
協働	人権協会のネットワークを活用した広域的広報活動・情報発信の支援 ・活動発表・報告機会の提供及び連携 ・人権協会事業への参加	・フードドライブにおける各地域への周知と啓発などの情報発信 ・各地域人権協会への事業紹介 ・フードパントリー活動における地域支援の連携	・事業実施にあたっての広報協力 ・実施場所の相談	・ホームページ、ソーシャルメディア等の情報発信 ・関係団体へのチラシ等の配布など広報活動 ・学習会等の企画内容の相談